

2012 **冬** 広報誌

ICC Kyoto

 国立京都国際会館
Kyoto International Conference Center

▼巻頭言
前原誠司氏

国際会館あの頃
財団法人千里文化財団
専務理事 湯浅叡子

会議やイベントも、
好評のうちに開催。

ちょっと気軽に、周辺散策。
京都商工会議所
創立120年記念樹
蠟梅(ロウバイ)の香りに
四季の移ろいを思う。



巻頭言

国立京都国際会館が開設された年、私は4歳でした。私の幼い頃の記憶を辿れば、確か京都国際会館は「地球防衛軍」の基地であり、ウルトラセブンと宇宙ロボット・キングジョーが戦った撮影地であったと思います。その白熱した戦闘シーンをみて手に汗握る興奮を覚えたことを今更ながら良く覚えております。

それから年月が経ち、私が議員生活を始めるとともに、京都国際会館で催される様々な会合にお呼びいただいて、その壇上でご挨拶をさせていただく機会を得て参りました。また私の後援会でも、夏のイベントなどで幾度となく会場をお借りしたこともございまして、地域に開かれた国際会議場として日頃より大変お世話になっております。

私が京都国際会館に何う際、いつもその建築の素晴らしさに感動を覚えます。まさしく「地球防衛軍」の基地の名にふさわしい近代的な建築様式は、日本においてはもちろんのこと、世界においても類まれなもので、そのような建築物が私の地元でもある左京区にあるということを誇らしく思います。



前原誠司 氏 —— プロフィール

昭和37年4月	京都市生まれ
昭和57年4年	京都大学法学部入学
昭和62年4月	(財)松下政経塾入塾 第8期生
平成5年7月	衆議院議員初当選、以来6期連続当選
平成17年9月～18年4月	民主党代表
平成21年9月～22年9月	国土交通大臣
平成22年9月～23年3月	外務大臣
平成23年8月～	民主党政策調査会長

近年、私は国土交通大臣として日本の観光行政における成長戦略を根本的に見直す機会を得ました。そこで上った課題のひとつが、国際会議の積極的な誘致です。世界では業種を問わず様々な国際会議が開かれており、その経済効果を見越しての誘致合戦が世界的規模で繰り広げられております。しかし、日本の現状における国際会議の受け入れ体制のことを考えますと、その整備はまだ端緒についたばかりであると言わざるを得ません。京都国際会館の理念でもある「諸国民の相互理解と友好親善を図り、学術・文化の発展に寄与し、世界の平和と繁栄を実現する」ためにも、京都における5,000人ホールの建設は非常に重要な課題です。この目標達成に向け、私も微力ながら取り組ませていただいておりますので、今後とも皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

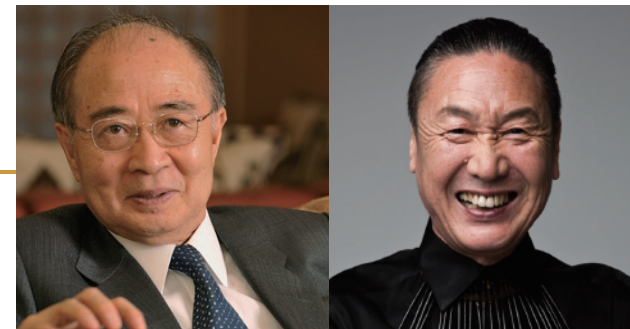
前原 誠司

これから開催予定のイベント

予告 自主企画シンポジウム 若者よ、世界へ飛び出そう！

最近の日本の若者は内向き志向になり、海外へ留学を志す学生数が年々著しく低下してきています。最近の新聞報道によりますと、2010年～ 2011学年度に米国の大学に在籍していた日本人留学生が、前年度比14%減少し、10年前の半数以下となったそうです。1990年代には首位だったこともある日本ですが、今や1位の中国人留学生の7分の1となり、インド、韓国、カナダ、台湾さらにはサウジアラビアにも抜かれ7位まで落ちてしまったとのことです。

そのような現状を憂い、当会館では今年の自主企画の一つとして、世界でご活躍されている方々を講師に迎え、「若者よ、世界へ飛び出そう！」と題して、シリーズでシンポジウムを企画しています。第1回目、2回目の予定は次の通りです。



第1回目
日 時：2012年4月14日(土)14:00～16:30
講 師：元国連事務次長 明石康 氏

第2回目
日 時：2012年5月26日(土)14:00～16:30
講 師：デザイナー・プロデューサー 山本寛斎 氏

いずれも募集人員200～300名、入場料無料です。夢を実現するために、一人でも多くの若者のご参加をお待ちしております。詳細は追ってチラシや当館ホームページでお知らせいたします。

これまでに開催されたイベント

第52回秋の宝松庵茶会

2011年11月27日

毎年2回(春・秋)当館自主企画のひとつとして開催している茶会です。当日は天候が良く紅葉が見事に色づき、全国各地から約600名のお客様にお集まりいただきました。心より御礼申し上げます。次回第53回春の宝松庵茶会は、4月30日に開催予定です。是非ご参加ください。



第15回 ILOアジア太平洋地域会議 (ILO APRM)

2011年12月4日～7日

国連の専門機関であるILO(国際労働機関)の第15回ILOアジア太平洋地域会議(ILO APRM)が国立京都国際会館で開催されました。初日に行われた開会式では、野田総理大臣、小宮山厚生労働大臣による講演が行われた他、東チモールのジョゼ・ルイス・グテレス副首相、アラブ労働機構(ALO)のアハマド・ルクマン事務局長や東南アジア諸国連合(ASEAN)のスリン・ピッスワン事務総長、ILOのファン・ソマビア事務局長による演説も行われました。全ての人が自由、

公平、保障、人間としての尊厳が確保された労働条件を享受する“ディーセントワーク”の達成のため、これまでに成し遂げた進展を検討し、今後4年間の当該地域での活動方針を決定することを目的として開催された本会議は、1968年(昭和43年)の第6回会議以来43年振りの日本開催であり、ILO加盟国の内、アジア太平洋地域に属する約40の国・地域の政労使の代表約500名が参加し、4日間の会期に幕を閉じました。



国際会館あの頃

interview — ②

財団法人千里文化財団専務理事 湯浅叡子氏インタビュー

【湯浅叡子氏略歴】

同志社大学英文科卒
国連協会京都本部勤務
1961年～1965年
渡米 インテリア雑誌「ハウス ビューティフル」エディター
1966年～1976年
財団法人 国立京都国際会館 館長室長
1976年～
財団法人 千里文化財団 専務理事

(館長) 開館の1966年8月に、35カ国1500名の参加者、第6回国際電子顕微鏡学会がございましたね。

(湯浅) お食事のキャパシティーの問題が表に出ました。メインホールだけでも1,800人、食堂は350人。どういう算術したのと設計者につめ寄りました。柿落しの第5回日米貿易経済合同委員会の時は、よくもこれだけ日本人はアメリカ人に対して卑屈になれるなという程、卑屈でしたねえ。これは非難しているんじゃないくて、日米関係はそういう状況だったのです。日本がまだ敗戦というものを色濃く引きずっていたということです。悪いと言う意味ではなくて、情けないけど日本は敗戦国なんだなあ、しょうがないなあと思わざるをえなかったですね。経済閣僚会議ですから、大きい部屋はいらないのでルームB1でやったんです。初めての会議で閣僚が来るそうだと新聞が書き立てたので、京都の経済界の人たちが、設営中に見にいらっしゃるわけ。伝統ある織物会社の社長が見に来て「この室の正面にいい綴れ織を掛けてあげるわ」とサイズを測って帰って、あとで流鏑馬の綴れ織の素晴らしいのを掛けてくださいました。そこに主管庁のある課長がみえて「誰だこんなものを掛けたのは。こんなものを掛けたら、日本が好戦的で、戦争が好きな国民だと思われるじゃないか、すぐ下げる!」と怒鳴りまくるので、仕方なく社長が下げたんです。その当時に、そういう心配を役人がもったというの、致し方ないかなという気もするんですが。色濃く敗戦を背負っていたわけですから。日米貿易経済合同委員会で良かったことは、クローズド・セッションで一切マスコミが入れないから、みんな書くことがない。結局「レディースプログラム」のこととか「国際会議場」のこととか「私」のこととかの雑記事ばかり書かなきゃ送れない。結果的に会議



場のことを書きまくってくれまして、それで大きな宣伝ができました。これを宣伝費に換算したら2億円は下らないだろうと言われた経済人がいらっしゃったくらいです。

(館長) そのあと6年位たちますけれども、日本ペンクラブの会議がありそこで遠藤周作さんが日本学ジャポノロジーの国際会議を開いた折に、実にテキパキと会議を運営し適切な助言を与えてくれる頭のよい魅力ある女性が日本にいることに更に驚いたと。

(湯浅) あの時の会議を運営したのが、三浦朱門、阿川弘之、遠藤周作が同世代でペンクラブ側の事務局の芯になっていました。年もまだ若くて丁度よかった。仲良くなって楽しかったですよ。

(館長) 未来学者ハーマン・カーンが日本のことを色々書いてくれました。アメリカとかユダヤ人のことも書いていましたが、中でも非常に日本に対する関心が高かった。

(湯浅) 日本人はもっとハーマン・カーンに感謝しないといけませんのよ。日本の未来を、日本人を非常に高く評価した人ですよ。

(館長) そういう正に最先端の分野の学問的国際会議を引っ張ってこられたんですね。

(湯浅) 私の口癖だったんです。「年間に新聞の第1ページに載るような会議を2つはやれ」と言っていた。どんなに広報費を多く積んでいろんなものをこしらえるより効果がある。あの頃はそういうのを結構やりましたよ。

(館長) 建物は重要ですけども、そのスタッフをどういう風に訓練し一流にしていけばとても重要ですね。

(湯浅) どんな会社の大社長であれ、大学の総長であれ、国際会議については素人なですよ。プロは我々だけだという、そういう誇りを持ってというのが1つでしたね。1年に何

百とやるのですから、誰でも覚えますよ。主催者が一生懸命説明して下されると、もう絵が描けちゃう。「先生のとこの会議なら、開会式はこの室でこういうセッティングにして、分科会をなさるならどこどこで。こうしてプランを作って差し上げなさい。経費は概算でいいから出してあげなさい」と、そういう訓練をスタッフにしたんです。そうすると主催の皆さん、本当に国際会議を一生一代の花道と思って大変なことをやるんだと思ってきた方がほとなさる。プロとしての仕事はそういうものだ。

(館長) 今展示場が圧倒的に少ないんですよ。

(湯浅) どれも中途半端ですねえ。だから橘館長の時に3,000名のをつくんなさいと。かなり動かれたんです。

(館長) 今の国際会館の問題は、イベントホールとかアネックスもつくっていただいたんですが、どれも中途半端。5,000名を超えればいいけれど、土地が駐車場で1万㎡あるのでそこに4,500名位のものをつくって、それを展示場にもなるように間仕切りをやると800名位のが4つとれるという。そういう格好のが、相乗効果が凄くあるということなんです。昔から大きな会議を呼び込むには収容数が少ないと。

(湯浅) 残念ながらねえ。

(館長) 首都圏だけに固まっちゃって。日本の良さを感じさせるには、特に震災の影響とか原発の影響とかとなった時に、京都あたりに5,000名ぐらい入るのが必要だと、真剣に考えてくれている人はいるが、政治的な声になって出てこないんです。

(湯浅) 今の社会状況では出せないですね。

(館長) その後、千里文化財団専務理事で活躍されておら

れて、国際会館を眺めておられると、どういうところが気になっておられるのか、今後どういう国際会館であるべきなのか、当時の御苦労が今どうなっているのか、なにかご意見ございますか。

(湯浅) 特にないですね。というのは、私は自分がやっているときは、ことに最初でしたから理想もあれば無からつくっていくこともありました。志というものがありませんが、人が変わればその人の志もあればカラーもありますし、だからそれにとにかく言うべきではないというのが一つあります。但しね、ずーっと変わってほしくないのは、日本に最初にできた国有の国際会議場であるという誇りを高く持つこと、しかも京都という日本の文化を凝縮したような街にできたという意義を十分に理解し、いろんな意味でそれらを反映した会議場であってほしい、日本文化に無縁であってほしくないとは思っていますね。

(館長) 昨年4月に国際会館の理念と運営方針と職員心得というものを、皆さんで意見を出し合って制定しました。国際会館としてやっていくんだったら、あったほうがいいということで。要するに、お金だけ儲ければいいじゃなくて、理念に基づいてやらしてもらって、お金は結果的についてくる。

(湯浅) 殊に京都はね、国が初めて作ったものですから、その使命があると思います。最初に作ったのだから、大げさにいえば国の名誉をかけて作ったんですからね。イメージを大事にしてください。

(館長) いい会館をつくってもらったんだから、大切にして、感謝をしないといかんということですね。本当に今日は長いこと、色々なお話を有難うございました。【了】

information

国際会館が災害発生時の活動拠点に

11月25日、京都市と国立京都国際会館は、災害発生時における応急対策活動の拠点として京都市が当会館を使用すること及び京都市の備蓄物資を当会館で保管・活用することを内容とする協定を、門川大作 京都市長と稲盛和夫 理事長の間で締結しました。

災害発生時における当会館の施設等の使用の内容は、地域住民等の避難場所、消防署、警察、自衛隊、公共団体の活動拠点、負傷者等の救護所、救援物資の集結、配送拠点、ヘリポート等広域搬送拠点及び、京都市の備蓄物資の保管並びに災害時における市民等への配布及び活用等です。



重要会議やイベントも、好評のうちに開催。

2011年10月29日～11月6日

第26回国民文化祭・京都2011開会式 オープニングフェスティバル

晴れ渡る古都の秋空のもと、日本最大の文化祭典が開かれました。「こころを整える～文化発心」をテーマとする第26回国民文化祭・京都2011の開会式及びオープニングフェスティバルが、国立京都国際会館に参集した3,000人のこころを捉えたのです。皇太子殿下のご臨席の



もとに繰り広げられた数々の文化絵巻は、京都が日本文化のふるさとであることを来場者の胸に刻んだことでしょう。また、開会式・オープニングセレモニーに続き、夕刻からは、アネックスホールにて東日本大震災復興祈念蠟燭能が開催されました。10月29日の開会式を皮切りに、11月6日までの9日間、京都府内では約70のフェスティバルが開かれました。

2011年11月10日～12日

第27回京都賞

科学・文明の発展、また人類の精神的深化・高揚に著しい貢献をした人々に贈られる「京都賞」が11月10日から3日間開催されました。10日の授賞式には、高円宮妃久子殿下ご臨席のもと、政官財の各界、学会などから約1,900名が出席され、3人の受賞者による翌11日の記念講演会には、2,100人もの方が耳を傾けました。また、12日のワークショップでは各部門とも多くの参加者がありましたが、特に坂東玉三郎氏の「思想・芸術部門」には1,900名の参加者がありました。

2011年の受賞者は、先端技術部門が「材料科学」の分野からジョン・ワーナー・カーン博士、基礎科学部門が「地球科学・宇宙科学」の分野からラシッド・アリエヴィッチ・スニヤエフ博士、思想・芸術部門が「映画・演劇」の分野から、五代目 坂東玉三郎氏が選ばれました。



2011年11月1日

古典の日推進フォーラム2011

2011年11月1日に古典の日推進フォーラム2011が開催されました。本フォーラムは、2008年の源氏物語千年紀を起点として始まった、11月1日を「古典の日」として全国・全世界に定着させ、法制化を目指したイベントであり、今回で3回目の開催となりました。「古典の日」制定に向け、10万人以上の署名を集めた今回は、本フォーラムに先立って開会式を迎えた国民文化祭・京都2011とも連携して行われました。当日来館された約1,800人の参加者は、古典について思いを巡らせると共に、東北地方太平洋沖地震で犠牲となられた方々への追悼と被災地への復興に祈りを捧げました。フィナーレは雅楽師である東儀秀樹氏が雅楽演奏を行い、その美しい余韻を残したまま、盛会の内に終了致しました。



東儀秀樹 氏

2012年
1月～4月
催事カレンダー

開催予定会合一覧 (1月16日現在)

国際的、全国的な会合など、幅広くご利用いただいています。
内容や参加人数にあわせて、会場をお選びください。

※参加者数は概数

1月	1月14日～15日	第15回日本病態栄養学会年次学術集会	4000人
	1月20日～22日	公益社団法人日本青年会議所2012年度京都会議	12100人
2月	2月4日～5日	全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 第19回研究大会 in 京都	3000人
	2月9日～10日	第50回関西財界セミナー	750人
	2月11日	京都国立博物館国際シンポジウム「中国近代絵画の形成と日本」	400人
	2月11日～12日	「KYOTO地球環境の殿堂」表彰式	1000人
	2月11日～12日	京都環境文化学術フォーラム	1000人
	2月13日～15日	第28回APOトップマネジメントフォーラム	70人
	2月14日	平成23年度第2回障害者就職面接会	500人
	2月16日～17日	第2回分子追跡放射線治療国際会議	300人
	2月18日	国際シンポジウム「宗教の出会いがもたらす争いと豊かさーユダヤ教・キリスト教・イスラームの記憶から未来へー」	200人
	2月19日	第23回全国車いす駅伝競走大会出発式	200人
	2月19日	アスタリアルシンポジウム2012京都	500人
	2月26日～28日	第2回日仏先端工学シンポジウム	50人
3月	2月28日～29日	第10回京都老人福祉学会	500人
	3月4日	第9回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会	800人
	3月4日	希少難病フォーラム2012 京都会議	200人
	3月11日	日本糖尿病療養指導士認定試験	450人
	3月14日～16日	第85回日本薬理学会年会	2700人
	3月20日	佐川がん財団 第10回市民公開講座	500人
	3月23日～24日	介護報酬改定説明会	2000人
	3月25日	エキスパートナース・フォーラム2012	300人
	3月26日～31日	2012年IEEE音響音声信号処理に関する国際会議	1700人
	3月31日～4月1日	国際ロータリー第2650地区2011～2012年度地区大会	2000人
4月	4月2日	京都精華大学2012年度入学式	2300人
	4月11日～18日	第13回世界精密鑄造会議	400人
	4月24日	国際ソロボチミスタアメリカ日本中央リジョン 第26回リジョン大会及び2011年度分科会	2500人
	4月27日～29日	アートフェア2012	5000人
	4月30日	第53回(平成24年春)宝松庵茶会	600人

ちょっと気軽に、
周辺散策

冬のさなかに。
美しくほころぶ。



【蠟梅(ロウバイ)】

京都商工会議所創立120年記念植樹

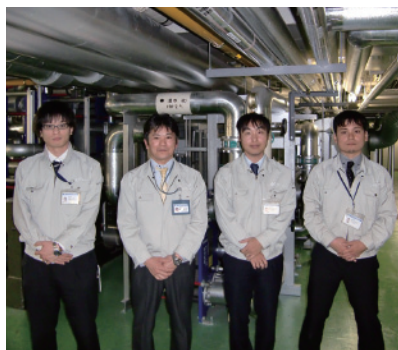
蠟梅は、中国原産の落葉低木で、花の少ない1月～2月にかけて黄色い花をつけ、とてもよい香りがします。2002年、京都商工会議所創立120周年記念に同女性会から蠟梅の寄贈を受け、弊館で催行された記念式典に先立ち、弊館庭園で記念植樹セレモニーが行われました。



Voice

【施設管理課】

弊館で開催される会議やイベントが円滑に行われるように、施設管理を安心・安全・快適・エコに推進しています。会館のバリアフリー化も佳境に入りました。何事も誠実がモットーです。よろしくお願いします。



写真左から：加美山恵士、浜秋明博課長、小郷武志、石井周二

編集後記

ひと
会館催時記を繙けば、春陽光を浴びて1月～2月にロウバイが、2月～3月にウメが、4月にサクラが咲き誇ります。千里文化財団専務理事湯浅叡子様のインタビューが完結しました。冬号が出来上がりました。ご一読下さい。本年もよろしくお願い申し上げます。
(広報・企画室)

編集発行 公益財団法人国立京都国際会館
〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
電話 : 075-705-1234 FAX : 075-705-2367
E-mail : com@icckyo.or.jp
URL : <http://www.icckyo.or.jp/>
発行日 : 2012年1月16日